

同窓会 19 年度青森県支部総会を終えて

事務局 板橋榮

今年の夏はラニーニャ現象の影響か本州最北の青森県でも、8 月の上旬から中旬にかけて最高気温が 35℃以上の猛暑日が続き、高齢者ら 12 人もが熱中症とみられる症状で病院へ搬送されたり、村里の沼でクマもたまたま水浴びしていた様子が新聞などで報道されました。

青森県支部の平成 19 年度総会を 7 月 22 日に開催し、本部からご多忙のところ川上泰総務担当理事(環境保健学部准教掛)の臨席をいただいて、総会は粛々と執り行われました。

私たち地方で生活している者は、学園等の様子を例年本部からご臨席いただいた理事から伺うほか、学園情報や会報により情報を若干入手しています。今年も川上理事から、いま学園が入試対象者等に麻布大学にふれるオープンキャンパスやオープンセミナーの実施状況、入学生の卒後進路とその夢の実現を可能にするため、2008 年 4 月予定の学部改組に向けて鋭意準備中であるなど、新しい事柄らとして非常に興味深く拝聴したほか、同窓会支部と部会のあり方は同窓会運営上大切なことであるため、執行部で検討することとしている等々の情報が提供されました。

このような情報の提供に接すると、青森から約 800km も遠く離れている淵野辺が、今年もまた何となく近くに感じられるような気持ちになりました。こんな気持ちを 1 人でも多くの支部同窓諸氏に味わって欲しいと思いましたが、残念ながら総会出席者は少なく、集まった顔ぶれは今年も数年来ほぼ同じでした。体の調子や業務の都合、時期、場所、事業等々に何かがあって出席しないのかと思ったり、中々悩ましいものがあります。

また、当日は、去る 4 月に行われた青森県議会議員選挙に、獣医学部昭和 52 年度卒業の夏堀浩一氏が立候補して、同一選挙地域で同業者らも立候補している中で、厳しい選挙戦を闘って堂々の当選を果たされ、その慶びを皆でお祝いをしました。席上、川村理事から当選のお祝いと激励のお言葉をいただき、夏堀浩一氏が県政の課題に積極的に取り組む旨の抱負を熱く謝辞と共に述べられました。私たち支部同窓者は、氏の健勝と活躍を祈念するものであります。

来年の総会には、支部同窓諸氏の顔が多数見られることを期待して筆をおく。